

♣ 扉	ベトナムの民族楽器⑪	青木有理	1
♥	まなぶということ	飯島貞親	2
♠	今月の統計資料		4
◆	詩 民主主義の行方	べにはこべ	8



特集 ニュースをもっと知りたい！

トランプ流貿易交渉で、米国経済は改善するの……北村 巖	10
トランプのガザ和平案とは？……高橋和夫	13
減税と積極財政 財源はどこ？……横田昌三	16
令和の米騒動は、行革のツケ……	18
地方創生は、どうに向かうのか……	20
口をそろえて「抑止力」 それしかない？……上田一男	22
技術革新と覇権国の退場で変わりゆく戦争……湯浅 剛	26

日本のうしろ 世界のうしろ

フランスで、またもや大規模抗議……浦田 誠	32
自国ファーストで揺れる国際援助……仁茂田芳枝	32

職場の法律相談 元気な米国の労働運動……猿田佐世	39
--------------------------	----

国家と教育 32 親の教育の自由……棟久 敬	56
------------------------	----

「からまなぶ『賃金論』」7 商品とはなにか……菅原修一	60
-----------------------------	----

◆ キャラバンサライ	42	◆ たちみ席	54
◆ スポーツ時評	44	◆ 働く現場から	55
◆ メルボルン便り	46	◆ 情報BOX	64
◆ 経済を知ろう！	48	◆ 北から南から	65
◆ 中国観看	50	◆ センターと	68
◆ 働くものと健康	52	◆ みなさんをつなぐ	68

カット＝野崎安希子

まなぶということ

参政党の正体を暴露し
なぜ魅力を感じるのかの検証が必要

飯島 貞親

7月の参院選で自公政権は少数与党に転落し、野党第一党の立憲民主党が議席を伸ばせない中、参政党が「行き過ぎた外国人受け入れに反対」を選挙公約に掲げ、移民に反対するナショナリズム的な「日本人ファースト」を主張し大躍進した。

参政党をめぐるのは、排外主義を強調している問題と同時に新たに憲法を制定することを党の目玉政策に掲げており、その内容は極めて危険なものとなっている。

現行の日本国憲法の三大原則の一つである、基本的人権の尊重に関連する条文が、参政党の憲法草案では、ほぼ失われている。限定された個人の権利についての条文はあるものの、「公益」によって制限される上、「国民は日本を守る義務を負う」とあり、さらに国防への参加の努力義務を明記している。

現在の日本国憲法では徴兵制は違憲とされている。しかし、これに該当するものが参政党の憲法草案にはない一方で、国防への個人の協力は義務とされているため、徴兵制を可能とするものと言える。

つまり、日本国憲法の国民主権、基本的人権の擁護、非軍事平和主義などは完全に否定し、憲法の基本的価値を無視しており、核兵器という究極の暴力を容認し、天皇を賛美して外国人を排斥している。私たちは、次の衆院選まで参政党の恐るべき正体を多くの人たちに知ってもらう活動を強化する必要がある。

気をつけなければならないのが、参政党を支持する多くの人々が同党に対する批判にあるとすれば、批判はむしろ支持を拡大する手助けをすることになることを理解しなければならないことである。批判をするにしても、なぜ、幅広い有権者が参政党に魅力を感じるのか丁寧に検証しながら対策を練る必要があるのではないか。

(林野関連退職者の会)